

第1回 SDS ゲートキーパー養成講座 報告書

2022年2月24日

報告者：山口大学医学部 SDS 支援システム開発講座

開催日時：2023年2月13日（月）13時30分～16時40分（13時開場）

開催場所：総合福祉会館4階大ホール

参加定員：会場50名程度

参加対象者：相談支援専門員、福祉なんでも相談員、地域包括支援センター職員、宇部市社会福祉協議会職員、障害者就業・生活支援センター職員生活相談サポートセンターうべ職員、市役所保健福祉関係課専門職員

参加申し込み方法：宇部市障害福祉課 支援係へメールかFAXで申し込み

開催形式：会場参加のみ

講演者：山口大学医学部社会連携講座 山根俊恵教授

参加人数：会場参加者51名

概略：

早期にSDS（ひきこもり）の当事者やその家族に気づき、思いを傾聴し、苦悩を理解し、適切な支援機関につなげ、見守るSDSゲートキーパーの養成およびひきこもりに関わる支援者のスキルアップを目的として開催。

内容：

参加者には、事前に令和4年11月5日（土）に開催しました市民公開講座「誰もがなりうる『ひきこもり』の正しい知識」に参加されていない方は、事前に当市民公開講座の動画を御視聴のうえ（山口大学社会連携講座：SDS支援者養成開発講座HP）、参加をお願いした。

第1部では、養成講座の導入として「市民講座を事前に見て感じたこと」を事前にグループ分けしたメンバーで話し合ってもらった。その後、山根教授の90分の講話を行った。

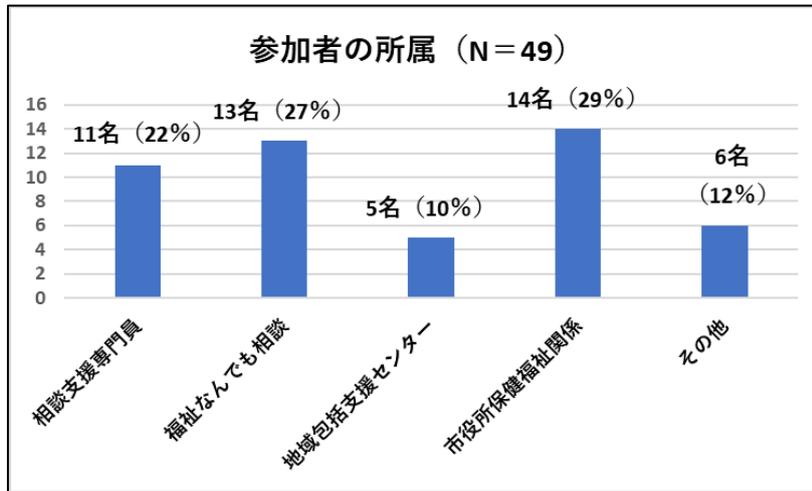
第2部では、4事例を提示し、グループ内で事例を分析し、事例の相談を受けたらどのような対応をするかを話し合ってもらった。その後、グループごとに発表を行った。

以下、終了後のアンケート結果（p2～8）と、グループワークの内容（p9～12）を添付する。

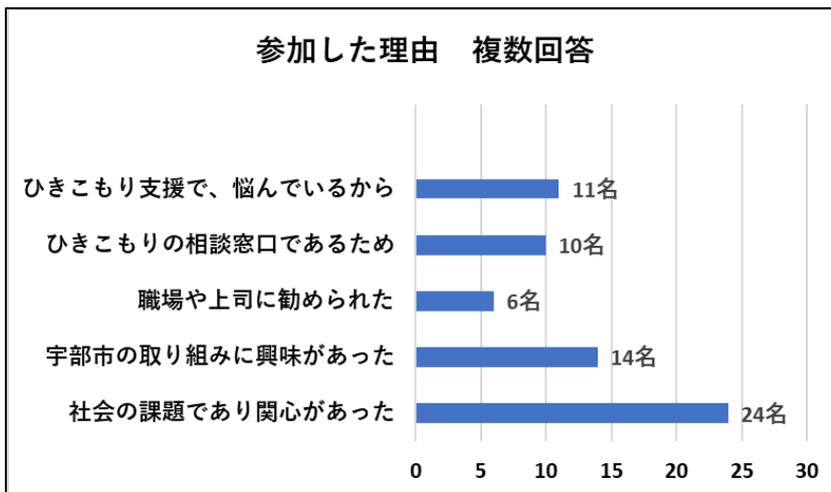
SDS ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果

(51 枚配布回収 49 枚 (回収率 96%))

1 参加者の所属



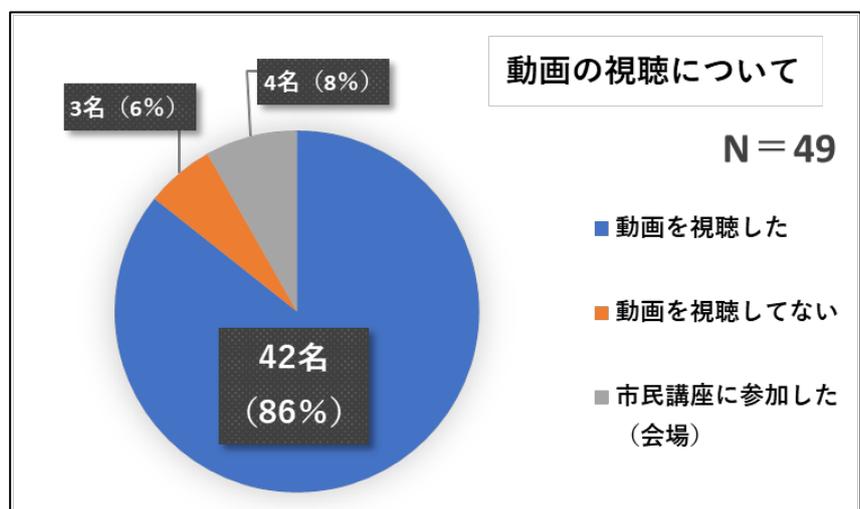
2 参加した理由 ※複数回答可 (3つまで)

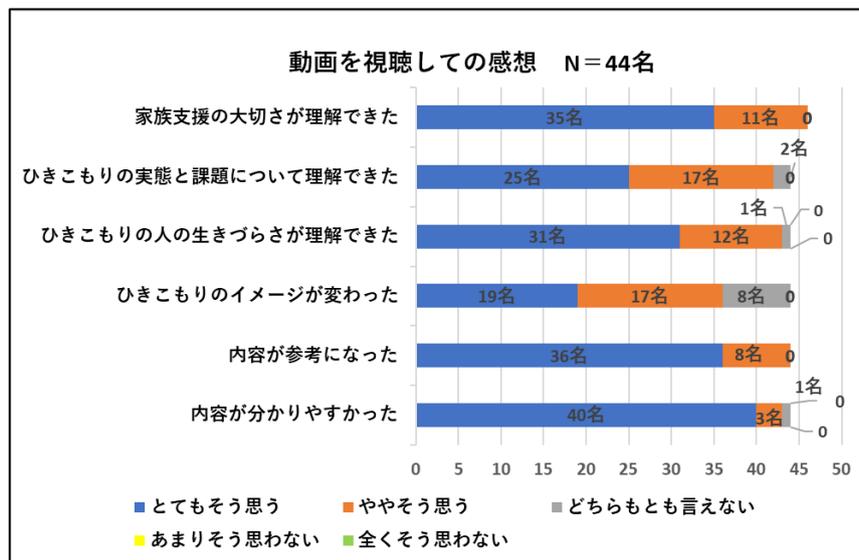


3 市民公開講座「誰もがな

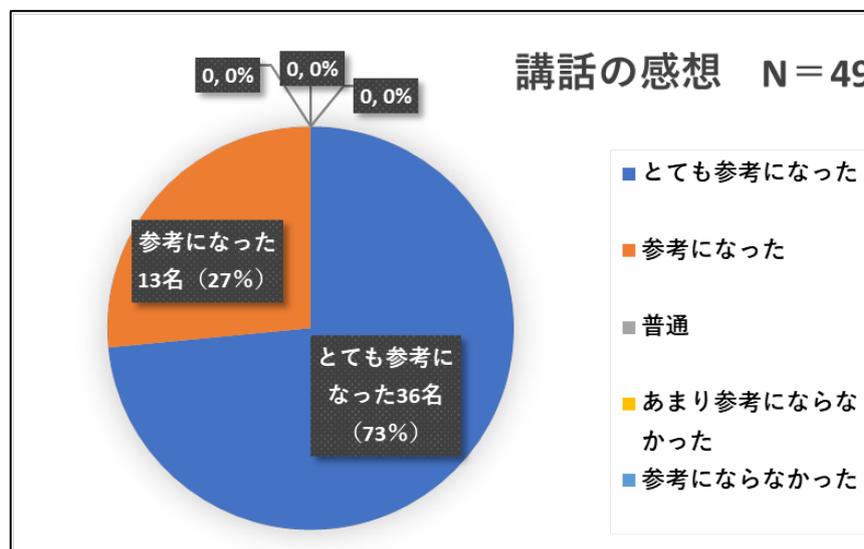
りうる『ひきこもり』の正し

い知識」の動画視聴





4 1) 講話について

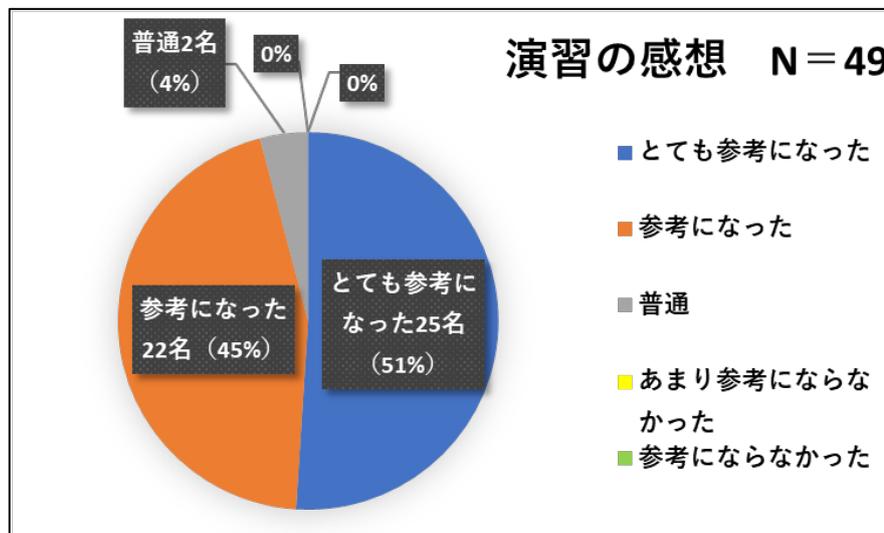


参考になった内容

言葉の使い方、細く長く関わりを持つこと
私の中のひきこもりの定義が間違っていただけで、ひきこもりに該当する方は多くいるのではないかと感じました。生きづらさを理解しようとするのが大切だと感じました。
コミュニケーションのとり方（双方の意見を尊重すること、表現の仕方など）参考になった。
支援者の当たり前・普通で状況を判断して支援するのではなく、当事者が抱えている想いや背景に目を向けて、理解者になる。本当に必要な支援を考えることが大切と学びました。
コミュニケーションをとる上で、気をつける点について、実践の中で生かしていきたいです。
沢山の事例の紹介があり、実際にどんな相談があるか知ることができ支援の現場のイメージができた。
具体的な事例をもとに対処方法や現状の課題について考えることが出来て良かった。
支援者の勢いで動いてはいけないと学び、相手のペースに合わせることの大切さを学びました。
すぐに解決しようしない、思いを引き出す、という部分が印象的であった。介入してつなげることをいつも一番に考えていた。
山根先生が関わったケースに対し、どのような視点でどう関わったのか学ぶ機会になって良かった。

当事者の話を聞くことがなかったので勉強になりました。
事例がいろいろ出てきてわかりやすかったです。ひきこもりの方の相談はないので疑似体験出来て今後に役立てていきたいと思います。
分析シートは客観的に整理できると感じた。この整理方法を深めたい。
具体的な事例を聞いてよかったです。支援者に対しての初めの一言にとっても悩み、こちらも緊張します。
ご本人の生きづらさにしっかり耳を傾ける
事例分析をもっと詳しく聞きたかった

4 2) 演習について

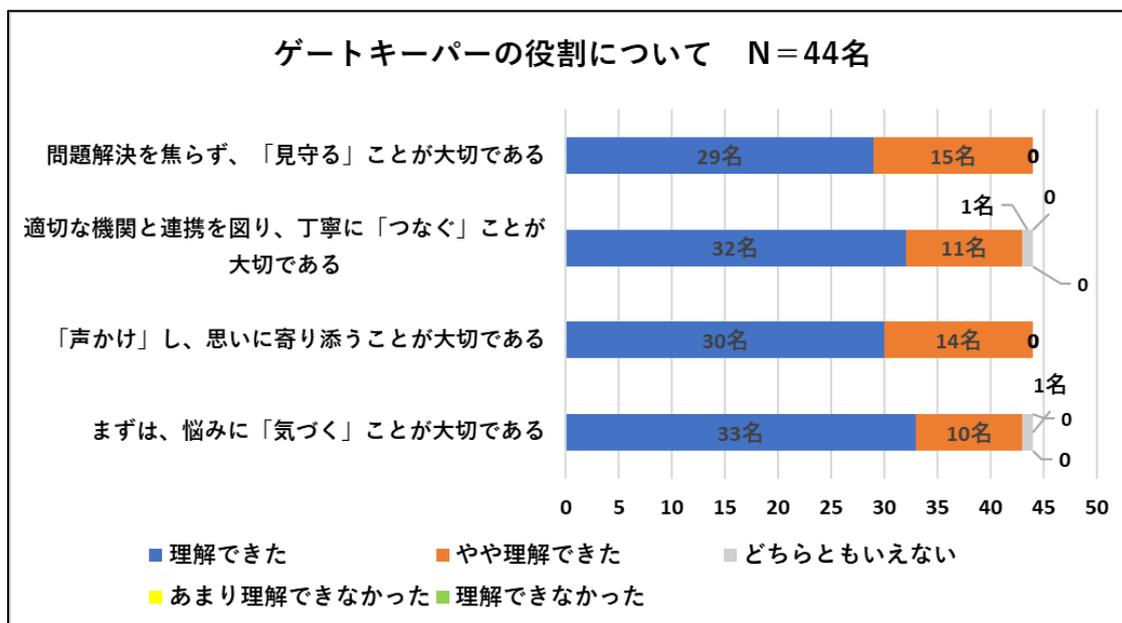


演習の参考になった内容

実際にあった話などを聞いてより理解しやすかった。
どこにつなげていくのかをよく知っておくこと
難しかったですが、事例がとてもリアルで勉強になりました。
支援むずかしさを色々な職種から話を聞いた。家族や当事者に合わせて話を聞いて支援を考えていく必要があると学びました。
何度関わっても内容が違うので勉強になります。
具体的な事例の見方（アセスメント）について、違った職種の人の意見を聞くことができ、良かったです。
グループで困っていること等共有できた。実際に支援されている事例について聞くことができた。
自分にはない視点で関わり方を学びました。
ケースにより対応方法は全く異なるので事例検討の機会が増えると良いと思った。
色々な方の支援されている話が聞けて良かった
支援者の困りごとが共有できた。支援者の工夫が共有できた。
様々な立場の関係機関で協議ができ、つながりが持てたことが良かった。

発表後の山根先生の補足等が大変勉強になりました
事例が多かったので一つの事例を具体的に深められなかった。講義を受けてからの検討だったので円滑だった。
ひきこもりの方の支援に関わったことがなかったのでいろいろな方のお話を聞くことができ勉強になりました。
自分が気付かないこと、新しい情報などあり参考になりました。
多職種の方の視点を色々聞くことができた
二つ目の演習はテーマを絞ってもらった方が話しやすかったと思います。

5 講座を受講して、以下の SDS ゲートキーパーの役割について理解

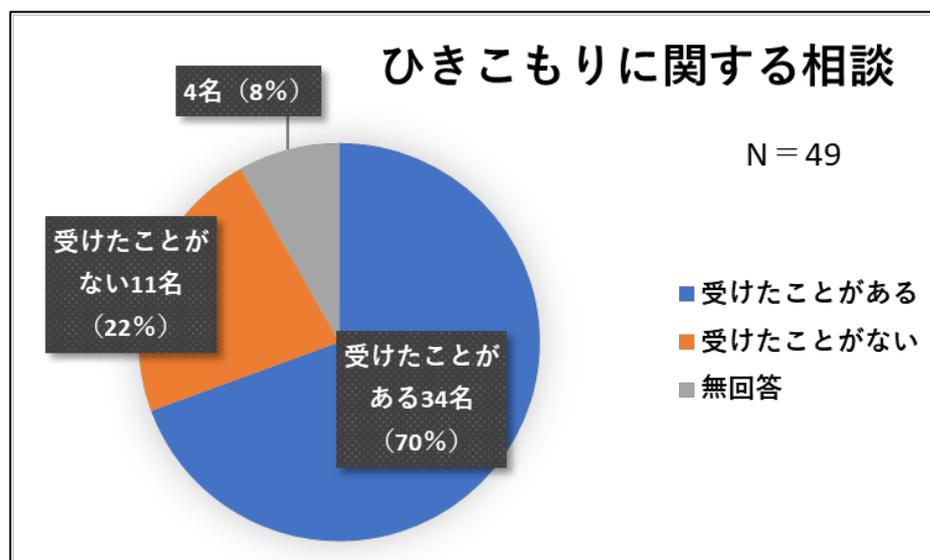


6 講座を受講して、今後、ひきこもり当事者やその家族から相談を受けた際に、気をつけたい事や実践したい事

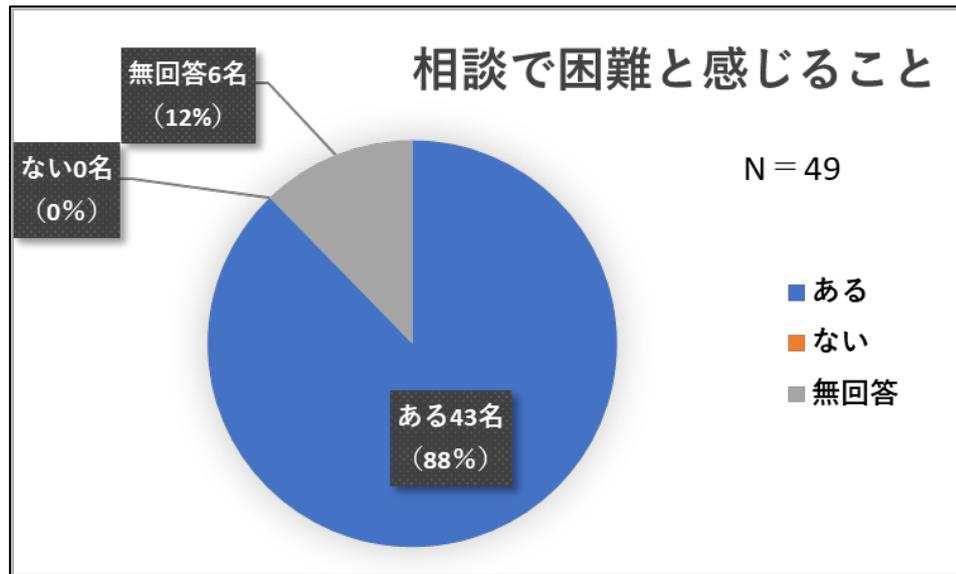
相談者、当事者、双方の話を聞き片寄らない支援をしたい。声掛けの仕方で相手の感情を害することがあるので気を付けたいと思った
まずは、相談者の話をしっかり聞き、すぐにつなげるのではなく、関係を築いてから出ない合溶液ないことを改めて思うことができた
ご本人、ご家族の理解と、その尊重する姿勢です。支援者のスタンス、その体制です。
声かけの仕方などは気をつけていきたい。
しっかり言葉を選びながら中立に支援していきたい。
相談を受けたときは優先的に取り組む。
傾聴に徹するときは、チラシは持っていかない。
当事者に関して声掛けの仕方（こちらも緊張してしまう）
まず聞くことに徹する。解決をあせらず、ゆっくり関係性を築いていきたいです
寄り添う姿勢に気をつけていきたいです

いきなり提案しないでまずは話を聞くことをしたい。
ふらっとコミュニティへの正しいつなぎ方を詳しく知りたいです。
中立な立場で考えていくことが出来たらと思う
生きづらさを理解し、あせらず、家族の気持ちをよく聞くこと
言葉を選んで話すこと。結論を急がない
解決をあせらず、まずはしっかり話を聞いて状況や背景をとらえていくことを大切にする。
相談を受けた際に、関係機関など、巻き込んでいくこと。一人で抱え込まないように、前向きな意見に意識を持つ。
しっかりと話を聞（聴）きたい。表面だけにとらわれないよう気をつけたい。中立的立場や言葉の選択など、気をつけて対応していきたいと思う。
まずは労うこと。相手を否定したととられないような。相手がもう相談したくないと思わないようにしたい。本人・家族の思いを丁寧に汲み取ること。じっくりと関わり続ける姿勢・安心できる相談場所の雰囲気づくり中立の立場で接する
相手の助けを求める（声にならない）声に気付けるようになりたい。また、過激な表現に安易に反応しないように、心穏やかに対応できるようになりたい。
双方の意見を尊重するとともに、言葉の選択（表現）に気をつけていきたいと思いました。
自分のかけた言葉がよかったかどうか、振り返りたいと感じた。当事者の方の世界、ものの捉え方を想像できる支援者でありたい。かける言葉や対応も変わってくると思う。
当事者の家族の思いに寄り添った対応ができるようにしていきたいです。

7 ひきこもりに関する相談の有無



8 1) ひきこもりに関する相談を受けた際に、困難と感ずること

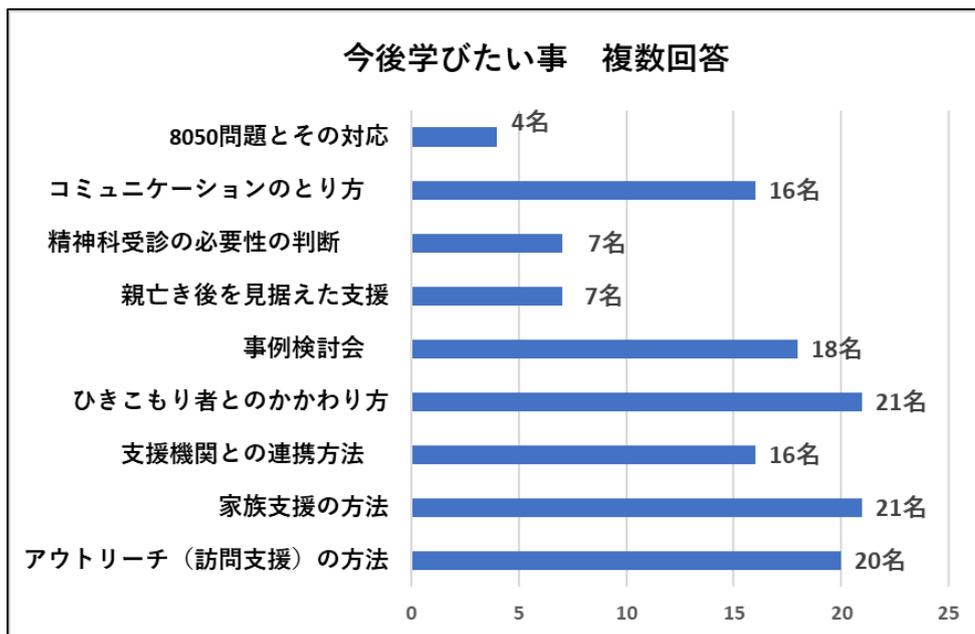


8 1) ひきこもりに関する相談を受けた際に、困難と感ずる内容

何度か訪問するも上手く話が聞けず息詰まりを感ずている
本人の会うまでに、なかなかたどり着けなかったり、親子さんから困りごととして言われなかったり、するためそのままの状態になっている
相談者が変化を嫌がること(家族としてのかかわりを変えようとしなない)支援者としてキーパーソンだったが、異動により担当が変わったことで、支援が途切れてしまった。様々な支援機関と”合わない”との理由でつながらない。
なかなか本人に会えないことがある。親以外の者から相談があった場合、親に問題意識がないことが多い。
ご本人に寄り添い、ご家族の思いに伝えていくこと。
地域住民からの相談があった場合、短い期間での解決を求められることが多い。住民の理解のむずかしさが原因とは思われるが。
本人に会うまでのアプローチ(家族)
何処につないであげたらよいかわからなかった。(同じ内容の回答3名)
基本電話での相談で、その後地区につなぐことが多いので、自分ができることが何かを考ずることが難しいです。
本人の自覚があまりないことと、発達障害があり(受診できていない)本人が障害に自覚していないので、どう医療機関へつなげていいかわからない(傷つけてしまうのでは)
家族が変わる、意識を変えていただくことが難しい。「甘い」「みんな働いている」等、ご本人の前で発言される)(無理やりご本人を支援者の前に連れ出そうとする)
ひきこもり当事者が異性である場合、対応に苦慮することがあります。同性が望ましいと感じつつ、職場の人事も関わってくるので…
相談支援を次につなげること。つながりつづけること。(同じ内容の回答3名)
なんと声かけたら良いか迷う

本人や家族に困り感がない（同じ内容の回答3名）
8050問題で発覚した。80歳から関わり50歳の引きこもり対応
家族も特性を持っていて、関わり方の難しさがあるケース。本人を刺激することに（家族が）慎重になり、変化を希望されないケース。
なかなか本人に会えなかった。やっと会えても、本人の気持ち（本心）を聞き出せなかった。
相手（親）が早い解決を望みあせりすぎている。
家族へのアプローチ（家族も障害等あり、支援者の言葉かけが難しい）
本人に会うことが出来ていない。その家族が障害者であり、支援が困難である。
不登校→デイサービスにつなぐが、学校には行けず（デイには行くことが出来た）・就労していたお兄さんからの弟のひきこもりの件で、弟さんには会えず…
本人の意向がわからないこと、また本人から支援拒否されてしまうこと。親は困っていても、本人は困っていないため、支援のタイミングの判断が難しい。
どことどう連携するか。本人に会えないケースが多い。どのタイミングで介入するか。
本人が受け入れを拒否されていて、どこから介入したらよいか悩みました。

問9 ひきこもり支援について、今後学びたいこと ※複数回答可（3つまで）



グループワーク① 動画を観て感じた事

・ひきこもりに対する考えが変わりましたか？

【全体】

- ・はじめの対応の大切さを再認識した。
- ・心に寄り添ってない対応になってしまうと、支援を断ち切ることになる。
- ・表に出るまでの期間が個々によって違う。
- ・結果を出さなきゃと思いがちだが、丁寧にかかわることが大切だと気付いた。
- ・障害があると思ってしまう。病院につなげることを考えてしまい、本人の気持ちを忘れてしまう。
- ・どこにも行けない人が「ひきこもり」ということではない。
- ・何回も訪問したがつながらなかった経験がある。伴走者として支援をつなぎ続ける必要があると思った。
- ・周りの理解と支援者の関りでできる事がたくさんあると思った。

【当事者】

- ・当事者の話を聞いて、これまでの支援者としての関りを反省した。
- ・当事者 広報を見て相談→支援につながることに、意外と思った。
- ・当事者に会えた時の関わり方について、どうしたら良いか悩む。味方であることを伝え、受け入れてもらうことが大切。

【家族】

- ・家族支援の大切さ、丁寧に関わっていきたい。
- ・家族支援が大切。
- ・家族 まずは父を支援。周りの環境を整えてから本人に支援。
- ・家族が変われば、居場所ができると思った。

・当事者の思い

- ・自尊心が落ちていることが多いので、それをあげていく支援が必要。
- ・～しても大丈夫だよと、一步踏み出せる働きかけが大切。
- ・助けを求める方法が分からない人が多い。→その思いに寄り添い、理解するのが難しい。
- ・話をされる姿を見て、元ひきこもり当事者には見えなかった。
- ・相談に行くのは勇気がいったし、しんどかったと思う。寄り添う支援が大切。
- ・自分でも今のままでいいとは思っていないが、動き方が分からないのだと思った。
- ・背景を知ることが大切だと思った。

・家族の思い

- ・明確な支援ができない時、家族は受け止めてもらえなかったと思いがち。支援者と家族の思いのズレがあると思った。
- ・困っている、家族の思いが先行しがち、本人の困りは本人から聞けないと、想像をめぐらせることになる。
- ・早く解消したいとの思いを持っている。
- ・本人の思いをくみ取りにくい。どうしても親の思いに引きずられる。
- ・親の思いが強いことが多い。本人が、親からの背負わないといけない思いを抱えているのでは。

・家族も苦しんでいる。→傾聴が大切。

・これまでの自身の対応を振り返ってみて気づいたこと

- ・実際担当した方、うまくつなげなかった後悔がある。
- ・本人のペースにあわせた支援が大切。
- ・焦ってどうにかしようとしていた。
- ・親が亡くならないと、ことが動かないだろうと思っていた。反省。
- ・経験少ない。SOSを出せるタイミングを逃さないことが大切だと思った。
- ・なかなか本人にたどり着かない。家族にまず理解してもらう。
- ・当事者から見て親が敵であれば、その支援者も敵と思われてしまう。関りが難しい。
- ・訪問しても会ってもらえず、足が遠のいてしまった。反省。
- ・踏み込んで話をするのが難しい。動画を見て、かなりそのケースに深くかかわらないといけないと思った。
- ・相談があった際、待つタイプだった。なぜひきこもりになったのかについて、アセスメントが浅かったため、話を聞くだけにとどまっていた。

グループワーク② 演習

・事例分析をしてみte気づいたこと。

- ・支援者がすることは解決することではない。情報を集めて介入していくことが役割。
- ・親の言い分を押し付けなくなると、本人が変化。互いに話ができる状態にしていけると良い。
- ・中立の立場を取るの難しい。分析シートは客観的に振り返り、次の支援に活かせる。
- ・ことばのかけ方が大切。中立の立場で対応しないといけない。
- ・自分の対応を振り返ることができる。
- ・一連のやり取りを、それぞれの枠に当てはめることで、整理ができる。
- ・対応する前の準備として活用できる（シミュレーション）。
- ・家族、本人 両方の思いを受け止めることが大切。

・事例1～4の相談を受けたら、どう対応しますか。

【全体】

- ・まずは相談者をねぎらい、しっかり話を聞く。→相談者との信頼関係を築く。
- ・本人に会えないことが多い、親の対応を変えてもらう。
- ・まずは親のサポート。一緒に対応を考える。
- ・家族の話をしっかり聞く。→本人の生きづらさを知る。
- ・相談に至るまでの、過去の状況を聞いていく。
- ・行動が起こった場面について、きっかけ等詳しく聞く。
- ・サービスや制度の事は抜きにして関わる。
- ・1回の相談でどうにかしようと思わない。しっかり話を聞く。
- ・解決策ではなく、アセスメントをまずしっかり聞いていく。
- ・「ひきこもり」という切り口だけで見るのではなく、様々な視点からアセスメントする。
- ・今の状況に至った背景をしっかり聞く。
- ・家庭に既に関わっている支援者を切り口に介入していく。

- ・対応の緊急度が高いケースもあるので、そのような視点を持つ。

【事例別】

【事例1】70歳父親相談：「ひきこもり20年、45歳の娘と二人暮らしです。過去に事務職として働いていましたが、パワハラを理由に辞めてしまいました。食事は偏り、2日に1食程度しか食べません。ウエットティッシュでドアノブを拭かないと触れない、そのゴミをあちこちに放置しています。年金で生活していますが、将来が心配です」

- ・家族に本人に会いたいという気持ちを伝えてもらう。
- ・父の娘に対する関わり方を聞いていく。
- ・娘さんの思い・辛さを理解する。

【事例2】60歳母親相談：「ひきこもり10年、35歳の息子がいます。こうなったのはお前らのせいだと言って、機嫌が悪いと暴力をふるいます。毎日生きた心地がしません。先日は、ナイフを持ち出したのでびっくりしました。保健所に相談したら警察に行けと言われました。精神科病院に相談に行ったら、本人を連れてこないはどうしようもないと言われました。どこに相談しても何もしてもらえません。どうしたら良いのですか」

- ・怒る、暴れるには理由がある。本人の中に解決策があるかも。それに気づいてもらう。
- ・激昂した理由をよく聞いてあげることが大切。
- ・暴力が出るようになったのには、きっかけがあったのか聞く。
- ・まずは家族が本人を理解していけるように支援。
- ・家族の苦しみを受け止め、その先に本人とつながれるようにしていく。
- ・当事者の話を聞く。人間関係を築いてからつなぐ。
- ・何かあった時に備えて、了解を得て警察署生活安全課や近くの交番に情報提供しておく。

【事例3】80歳母親相談：「ひきこもり25年、50歳の息子がいます。過去には暴力がありましたが、今はありません。昼夜逆転しているので、今では、ほとんど顔を合わせることはありません。コンビニ等には外出しています。私が要介護2になり、家事ができないのでヘルパーさんに来てもらおうと思うのですが大丈夫でしょうか」

- ・母に関わっている支援者からも話を聞いてみる。
- ・親子別々に話を聞く。

【事例4】民生委員相談：「70代前半の母親と40代後半の息子の二人暮らし。認知症と思われる母親が外出して帰宅できなくなり、何度も警察に保護されています。息子が『何回言ったら分かるのか。外出するな』と大声で怒鳴ることがあり、虐待が疑われます。自治会とも些細なことで揉めています」

- ・包括支援センターが母の介護の事で相談に乗り、息子にそこからアプローチしていく。
- ・民生委員にもう少し詳しく聞く。家族状況、母の状態、担当のケアマネ・行政等関わっている支援者がいるか等→支援者からも話を聞く。

・ SDS ゲートキーパーの役割とは。

- ・ 気づくことが大切。介入の第1人者。
- ・ ありのままを受け止める。相談に来ることはとても勇気のいることをまず理解する。
- ・ ことばの背景を考えるスキルが必要。
- ・ 安心して話せる雰囲気、関係づくり—本人や家族の苦しさを受け止める存在。
- ・ 疲弊した家族をねぎらう。
- ・ 人間関係を築いて適切につなげる。そのために適切な相談先を知る。
- ・ 先入観を持たない。
- ・ ニーズ（デマンド）のアセスメント。
- ・ つなぎ先を見極め、橋渡しをする。
- ・ 正しい知識を持って、その地域で見守る存在になる。その人の味方である。
- ・ SOS を埋もれさせない。孤立させないようにする。

・ 宇部市 SDS 支援体制に求められるものは何か。

- ・ SDS ゲートキーパーがひとりで抱え込まないで困った時に相談できる体制。
- ・ 支援者同士のつながりが持てる。
- ・ 普段のネットワークを大事にする。
- ・ 担当が変わっても、支援が継続していけるようにする。
- ・ 誰かが関わり続ける体制。
- ・ それぞれの専門性、役割を認識する。
- ・ 支援体制をしっかりと作っていくことが大切（チームでの支援）。
- ・ つなぎ先を明確にする。
- ・ あったらよいと思うもの→昼夜逆転している人が夜間相談できる体制